



2025 年 11 月 21 日

「レイミー × Z-GIS 連携ソリューション」リリース及び専用サイト開設のお知らせ

2025年1月に、日本農薬株式会社（以下、当社）は「レイミーのAI病害虫雑草診断アプリ」（以下、レイミー）とJA全農の営農管理システム「Z-GIS」の連携を発表しました。当社はレイミーの診断機能と記録データをZ-GISに連携させることで、圃場で撮影した病害虫・雑草の発生状況や農作業記録を地図上で一元管理できる仕組みを実現し、農作業の効率化に貢献しています。既に同年5月よりサービスの提供を開始しておりますが、今般JA全農のZ-GISサイト内に専用コーナーが開設されましたので、ここにお知らせいたします。

本ソリューションは、スマートフォンアプリを用いて病害虫や雑草、農作業、異変などの情報を簡単に記録し、地図上で可視化できるサービスです。すでに複数のJAや自治体の指導員をはじめ、農業現場で利用され、「誰でも使える記録・共有ツール」として高い評価と反響をいただいています。はじめての皆様も、ぜひ以下のZ-GISサイトからサービスの詳細をご覧ください、本ソリューションをお試しください。

当社は、今後もスマート農業をはじめとした生産者の利便性を向上させるソリューションの開発に取り組み、持続可能な農業に貢献してまいります。

■Z-GIS サイトのレイミー連携コーナー：[レイミー連携 | 営農管理システムZ-GIS](#)

（１）リリースの背景と目的

近年、農業現場では気候変動による突発的な病害虫の発生や、農業指導員の減少による現場把握の困難化といった課題が深刻化しています。本ソリューションはこうした現場の声に応え、「簡単・手軽・見える化」をキーワードに開発されました。

2025 年 5 月のサービス開始以降、現場での運用を通じて改善を重ね、10 月には活用事例や操作マニュアルを掲載した専用コーナーを Z-GIS のサイトに公開いたしました。導入をご検討の皆さまに向けて、より分かりやすく安心してご利用いただける情報発信の場として JA 全農と共に運営してまいります。

（２）本連携ソリューションの主な特長

① 誰でも簡単に記録できるスマホ操作

スマートフォンで写真を撮るだけで、病害虫・雑草・作業・異変・災害など幅広い項目をタグ付きで簡単に記録できます。IT が苦手な方でも直感的に操作できます。

② 位置情報・日時を自動取得し、記録の手間を削減

撮影と同時に位置情報と日時を自動で取得します。紙や Excel での手書き作業を削減し、現場の負担を大幅に軽減します。

③ Z-GIS で地図上に可視化し、全体像を把握

レイミーで記録した病害虫や雑草の発生状況や農作業の情報は Z-GIS に自動集約されます。地図上で可視化されることで、地域全体の状況をひと目で把握できます。

④ 情報共有・資料作成の時間を大幅に短縮

可視化されたデータは、会議や報告資料の作成、現場との情報共有にもすぐ活用可能です。データ収集から活用までのスピードが飛躍的に向上します。

⑤ 農業現場の記録が“データベース”になる

現場の記録が蓄積されることで、農業データベースとしての価値が高まり、将来的な分析・活用にもつながります。Z-GIS では Excel 形式で出力されるので、ご自身でデータ解析をすることも容易です。

⑥ 多様なシーンで活用できる柔軟性

病害虫・雑草対策に限らず、通常の農作業管理、鳥獣害被害や痕跡の把握、災害対応、圃場整備の記録などにも幅広く応用可能です。活用の幅は今後さらに広がることが期待されます。

⑦ ユーザー認証に基づく安全・安心なデータ連携

Z-GIS との連携はユーザーの同意を前提とした承認制です。許可のない情報共有は行われず、セキュリティとプライバシーに配慮した安心設計です。

(3) 活用場面

- **【病害虫の分布状況の把握】** 圃場の病害虫発生情報がタイムリーに収集され、病害虫の拡散リスクを迅速に評価できます。
- **【簡易な農作業記録と管理】** 圃場で写真を撮るだけで農作業の記録をすることができます。圃場での作業情報が一元的に管理され、農作業の進捗状況を把握しやすくなります。
- **【災害時の迅速な被害の把握】** 霜や大雨などの災害情報も簡単に記録でき、迅速に被害を把握することができます。これにより、いち早く効果的な対策の検討が可能になります。



(4) システムの概要

「Z-GIS」は全農が提供する営農管理システムです。高精細な地図上にマウス操作で簡単に圃場ポリゴン（区画情報）が作成でき、そこにユーザーが登録したい情報をエクセル形式で入力し紐づけることで、圃場の位置と営農情報を効率的かつ自由度高く管理できるようになります。「スマート農業のプラットフォーム」として JA グループの担い手サポーターである TAC を中心に普及活動を展開中です。

「レイミーの AI 病害虫雑草診断」は日本農薬が 2020 年にリリースした、日本農薬と株式会社 NTT データ CCS が共同開発した AI を活用したスマートフォン専用の防除支援ツールです。作物や田畑に発生する病害虫や雑草を写真から診断し、表示された診断結果から利用者が選択した防除対象に有効な防除薬剤の情報を提供、また農業に関するあらゆる情報を記録できる機能を有しています。

(5) お問い合わせ

レイミーの Z-GIS 連携に関するご質問や資料のご希望がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。導入に関するご相談も承っております。

■日本農薬株式会社 スマート農業推進部

Mail : smart_agri@nichino.co.jp

以上